令和５年 11 月 11 日　ＳＤＧｓ中学生議会　質問・答弁記録

【第２地区】

<質問・提案>

中学生議員（1 人目）

江戸川区のごみ問題についての提案です。

江戸川区内を歩いていると、よくポイ捨てされている、たばこやペットボトル、最近はマスク等の細かなごみをたくさん見かけます。

区内の中学校の中には、生徒会等の運営で、公園の清掃を行うボランティアを実施しているところもあります。

ただ、ごみを一時的に減らすことができたとしても、道にごみがあることによって、捨てることへの罪悪感が薄まってしまうのが現状です。公園のごみを拾ってくださる地域の方々もいらっしゃいますが、数は多くありません。中学校の生徒会も他の行事で忙しく、頻繁に清掃ボランティアを実施することはできません。

このままでは、捨てる人が増える一方で、それにつれて、江戸川区のポイ捨てはますます増えてしまいます。

中学生議員（2 人目）

そのようなごみが溢れかえっている現状から抜け出すためには、ＳＤＧｓの 15 番目の「陸の豊かさも守ろう」が大切です。

そのためには、一人ひとりの意識や気づきが大切だと感じます。なので、区内の小中学校を中心に、学校対抗で 1 人当たりのごみの拾った量を求め、競争要素を混ぜることで、勝ちたいというモチベーションを維持しつつ、地域のごみ拾いを行うことで、子どもは拾っていくうちにごみの多さを感じ、大人は子どもの頑張る姿やきれいなところにごみを捨てる罪悪感からポイ捨てを減らすことができると思います。

ポイ捨てを減らすために、一度江戸川区を大々的に、掃除する機会を設けていただけないでしょうか。

中学生議員（3 人目）

次に、小中学校で出る給食の残菜について、江戸川区の現状と質問をさせていただきます。

私の通っている中学校では、給食の残菜を減らすために、給食委員会が様々な企画をしています。例えば、給食の配膳がどれだけうまくできるかや、後片付けがどれだけ綺麗か等をクラスごとに競ってポイントを貯め、年度末に最高ポイントをとったクラスが、給食の献立を決められるという取り組みです。

他の学校でも、給食の残菜を減らすために様々な取り組みを行っていますが、不登校生徒

の増加等により、完全に残菜を無くすことができていないのが現状です。

給食の残菜が増えてしまうということは、食品ロスが増えるということであり、江戸川区の食品ロス削減推進計画の協力とも言えません。

また、学校に限らず家庭や飲食店で捨てられた食品は、処理工場に運ばれ、燃えるごみとして処理されます。それらの運搬や焼却時に二酸化炭素が排出されるため、給食の残菜を捨ててしてしまうことは、地球温暖化の促進にも繋がってしまいます。

中学生議員（4 人目）

先ほど述べたように、江戸川区の中学校では、給食の食べ残しを無くす活動を行っていますが、完全には無くなっていません。だからと言い、生徒一人ひとりには食べられる量の個人差があるので、強制的に食べさせ、残菜をゼロにするのは避けたいことです。

そこで私達は、その残菜を新しく資源等に使うことを提案したいと思います。静岡県のある市では、給食の残菜を肥料や燃料に利用しているそうです。

江戸川区でも、小中学校で出た残菜をバイオガス発電の燃料等に利用してはどうでしょうか。

また、そうすることで、ＳＤＧｓ目標の 1 番の「貧困をなくそう」や 12 番の「つくる責任つかう責任」等、様々な課題の達成にも繋がると思います。

中学生議員（5 人目）

私達からは、江戸川区の知名度についてのお話をさせていただきたいと思います。

江戸川区は、2021 年度に SDGs 未来都市に選定されました。ですが、具体的な活動について知っている人は少ないように感じます。同様に、江戸川区という区が一体何をしているのか、どのような地域なのか。知らない人が多いという気づきがありました。これは、区外の人だけではなく、区内の人にも当てはまっています。

そこで、私達から一つ提言をしたいと思います。それは、SNS を用いて、江戸川区の取り組みや魅力の発信をすることです。江戸川区での SDGs や地域の活動を活性化させるためには人々の協力が必要不可欠です。

また、協力を得るためには、話題性を持たせたり、知名度を上げていくことが重要だと考えています。具体的には、短時間で見れる、YouTube ショート等を使って、江戸川区の SDGs に関する活動や伝統・行事等の魅力を伝えていってほしいと思っています。

これにより、知名度が上がることで、まちが活性化し、SDGs8 番の「働きがいも経済成長も」という目標にも繋がってくるのではないかと考えています。

中学生議員（6人目）

では具体的に話題性を持たせたり、知名度を上げるためには、どのような動画がいいのでしょうか。それはとにかくインパクトのある動画を作ることです。具体的にインパクトのある動画を考えてきましたので、発表させていただきます。

まず、江戸川区のキャラクターを使いましょう。今回は、スプーンを持っているウサギのペロンと、歯ブラシを持っているリッパーを使います。このキャラクター達と江戸川区長で、葛西臨海公園の観覧車に乗ってもらいます。観覧車の中で、スプーンを持っているペロンが江戸川区長に小松菜を食べさせてあげます。江戸川区のいいところを、区長は観覧車が一周するまで挙げて、最後に歯ブラシを持っているリッパーが江戸川区長の歯を磨いてあげて終了というのはどうでしょうか。

この動画を YouTube に投稿し、更にこの動画を切り抜いた動画を TikTok や YouTube ショートに投稿すれば、話題にもなり、人が来て発展し、日本の GDP は江戸川区のおかげで、世界ランキング一位になると思います。

中学生議員（7人目）

区内に住んでいて、他の年代の方々との交流の機会となる大規模なお祭りや祭典が少ないように感じます。現在も様々なお祭りが色々な地域で開催されていますが、その地域限定のお祭りになってしまい、他の地域の人にはほとんど知られていないお祭りが多いと思います。そのため、区民全体の交流ができる場が少なく、交流の幅が狭くなっているのが現状です。

私の住んでいる一之江でも、毎年、工業高校の作ったねぶたが展示される、「一之江駅西口イルミネーションミュージックねぶた祭」というものが行われています。ねぶただけでなく、模擬店や中学校部活動の演舞・演奏等も行われていますが、この祭りのことを、他の地域に住んでいる人に知っているかを聞くと、「全く知らない」という人がほとんどでした。

中学生議員（8人目）

そんな現状を変える一つの案として、誰でも気軽に参加できるような、大きなお祭りを実施するのはどうでしょうか。他にも、若い世代向けに、SNS 等を活用して、お祭りの宣伝を行ったり、出店はボランティア制にし、高齢者の方々にも楽しんでもらえるよう、様々なことができると思います。

また、学生にも積極的に参加をお願いし、お祭りの運営にも関わってもらうことで、より立場や世代を超えた交流が促進すると思います。

中学生議員（9 人目）

近年、ネットが普及し、これにより、人との関わりが少なくなったと感じます。

人との関わりはいつの時代でもとても大切なものです。その繋がりをつくるきっかけとして、大規模なイベントがあると考えます。

また、大規模なイベントは、地域の活性化にも繋がります。

今行われているほとんどのイベントは、地域での小規模なものが多いと思います。そのため、区民全体として、交流の幅が狭く、世代を超えて一つのことに取り組むということが少ないように見受けられます。

他にも、江戸川区に住んでいて、川や海と近い距離感で暮らしているのに、あまり江戸川区の河川を利用してなにかを行うということがあまりないように感じられます。

中学生議員（10 人目）

そこで提案するのは、川にランタンを流すという行事を行うことです。この行事を開催することで、水害等、江戸川区の川に対してマイナスのイメージを持っている区民もプラスのイメージに変わり、より江戸川区を好きになれると思います。

しかし、この行事にはランタンがごみとなってしまい、環境に悪いという問題点があります。その点について、私達が考えた解決策は、回収まで参加者が行い、最後まで楽しめるようにすることです。

また、環境に良い素材を使ったランタンを使用することで、より環境に配慮することもできます。

この取り組みは、SDGs の 11 番目の目標「住み続けられるまちづくりを」の達成に近づく第一歩になると考えます。

<答弁>

斉藤区長

それでは、お答えをして参ります。最初に、ごみ問題についてのご質問です。

まず小中学校を中心に、学校対抗等、楽しめるごみ拾いのイベントの実施をというご質問でございました。

確かに江戸川区内で、まちでごみを見かける状況を変えなければいけないというふうには思っております。

また、ポイ捨てをしない意識を高めるために、学校対抗でごみ拾いをするというアイデア

は、楽しくまちを綺麗にできるとても前向きな提案をいただいたんではないかと思っています。

江戸川区内で今までやってきたことをちょっとお話をしますと、大々的に江戸川区内を綺麗にする機会としては、毎年5月と11月なんですが「環境をよくする運動」の区内の一斉美化運動、一斉にお掃除をしましょうというような運動がありますけれども、昨年度から区内の小中学校に参加をしていただいて、今年度からは高校にも参加を呼びかけているところです。

また、競争要素を取り入れたごみ拾いが行われたこともあります。コロナ禍の前になるんですけれども、篠崎高校の生徒さんが、チームで分かれてごみの回収量を競った。

また、町会や野球チーム、学校、企業、ボランティアの団体の皆さんが参加して、団体対抗のごみ拾いが行われまして、多くの方にごみを拾っていただきました。楽しみながら。

こうした取り組みは、コロナ禍で途切れてしまいましたけれども、今後ご提案の学校対抗のごみ拾いイベントの開催も検討できればというふうに思っております。

「環境をよくする運動」への参加も含めまして、まちを綺麗にする取り組みにぜひご参加をいただければと思っています。

斉藤区長

続きまして、各校で給食の残菜を減らしたり、その残菜を燃料に利用してはとのご質問については、教育長からお答えをいたします。

斉藤区長

いただいたご質問、まずYouTubeショートですけれども、若い方を中心に広く利用されているというふうに伺っています。もっとそこを勉強します。

そして区の取り組みを伝える、ＳＮＳの動画として大変効果的だと思っています。
ご提案の、私が観覧車に乗って小松菜を食べるという素晴らしいご提案も、いただくことができました、ありがとうございます。

今まで区では、LINEやInstagram、Facebook、X（旧Twitter）ですね。あとYouTube。様々なものを活用して、区の取り組みや魅力を発信してきております。

動画も、昔頑張ったんですけど、ＮＨＫで「チコちゃんに叱られる！」ってあるんですけれども、そこで私自身江戸川区内のキャラクターと一緒にですね、踊って参加をしまして、そこで数分江戸川区の魅力を発信してくれたことがありました。やはり全国放送なんで、多くの方に見ていただいて、いろんな反響をいただきまして、今回のご質問の趣旨も、やっぱり効果があるんだろうなというふうに思いました。

また、えどがわ区民ニュースというのを私達作っていますけれども、区内のＳＤＧｓの取

り組みを紹介する、「Everyone's　SDGｓ」という番組、これ毎月１本作って、放映をしてるんですけれども、これまで 25 本配信して、YouTube の再生回数は 1 万回を超えています。1 万回が多いのかどうなのかというのは、色々ご評価があるところだと思いますけれども、やはり江戸川区の知名度を一層上げるために、今後提案をいただきました YouTube ショートや TikTok を含めまして、時代に応じたＳＮＳの使い分け、話題性を高める動画のコンテンツ作りに取り組んでまいります。

そういったことがまちの活性化、江戸川区の魅力の発信にもなると思いますので、私も頑張って観覧車に乗りたいと思います。ありがとうございました。

斉藤区長

続きまして、大規模なお祭りの開催についてのご質問でございます。

本当にこういったイベント、多くの方々の参加が見込まれまして、世代間の交流が活発に行われる機会になると思っています。

人と人との繋がりの面から見ても、お祭りっていうのはとても大切だと思っています。何ヶ月も前から準備をして、その日に当日を迎えて、そこで多くの方にこう喜んでいただく。実現をしてそのあと片付け、反省会もあると思うんですが、そこで必ず人の繋がりというのはできてくるというふうに思っています。準備をする方は本当に大変だと思うんですけれども、そういったお祭りを開催する。

またそこに参加をしていただくということで、コミュニティの形成が図られるという大変大きな効果があると思っております。

ご提案の一つにございます、ＳＮＳ等を活用したお祭りの宣伝につきまして、多くの世代に参加いただけるように、区民まつりをはじめ、地域まつりで情報発信を更に、充実をさせていきたいというふうに思っております。

色々な課題がありますけれども、こういうのを皆さんと一緒に乗り越えていければ、より達成感も出てきますし、やったなという気持ちに、これに満たされるんじゃないかというふうに思っています。色々な課題はあるかもしれませんけれども、これから実現に向けてともに頑張っていきましょう。よろしくお願いします。

斉藤区長

続きまして、川にランタンを流すイベントをというようなご質問でございますけれども、江戸川区は川と海に囲まれた水辺都市であります。

しかし一方で区の陸域の 7 割が海抜ゼロメートルということで、水害のリスクと背中合わせの地形でもあります。

以前は台風で水が上がったりとか、そういうことも確かにございましたけれども、今は官

民一体、地域の皆さんと一体となって、様々なハード、ソフトの両面から対策をしております。その結果、外から水が入ってくるのは昭和 24 年からありませんし、下水道がほぼ完備された平成 7 年からはですね、水が上がったというのは、区内で 11 回。平成 7 年からなんで、それを多いという方もいるかもしれませんけれども、そういったものを今、解消に向け、11 回も、なんとか潰していくように今頑張っているところでございます。

江戸川区、自然災害のリスクがあるということなんですけれども、災害の専門家から以前こういうお話を聞きました。「災害の豊かなところは、自然も豊かである」というふうに言われました。ということはですね、災害のリスクがあるところは、特に江戸川区は水とみどり、そこに恵まれた自然環境が豊かな場所だということです。

今ハザードマップを見ていただいてるかもしれませんけれども、あれは 1000 年に 1 度のケースを想定しています。逆に言えばその 1 度以外は、水とみどり溢れるすばらしい環境がこの江戸川区だというふうにも思っております。

今回、ランタンを流すご提案をいただきましたけれども、長崎で、或いは京都でランタンフェスティバル、これ「長崎ランタンフェスティバル」「嵐山灯篭流し」京都の方ですね、全国的に見ても地域の魅力を高めるイベントもございます。

江戸川では旧中川で、毎年 8 月に灯篭流し、多くの方に参加もしていただいてるところでございます。

ご質問にもありましたけれども水に囲まれた江戸川区の特徴を生かしていく、環境にも配慮しながらというようなことも質問で言っていただきましたけれども、そういった面でですね、ランタンを流す部分についても、皆さんと一緒に色々な形で話し合いができればな、そういうふうに思っているところでございます。

これはＳＤＧｓの達成にも繋がってくるというふうに思っているところでございます。

蓮沼教育長

私の方からは、各校で給食の残菜を減らしたり、その残菜を燃料に利用しては、との質問にお答えいたします。

これらの質問は、食品ロスとそれに関した処理による二酸化炭素の排出も含めた地球温暖化、環境問題、雇用問題等に対して、鋭い問題提起と、その解決策を示していただいたものと受けとめています。ありがとうございます。

先ほども学校給食に関してお話させていただいた部分もございますが、各校でこの給食の食べ残しを減らす、様々な取り組みの工夫をしてもらっているところです。

先ほどのご質問の中でありました、配膳や後片付けの綺麗さを競い、優勝クラスが献立を決められるという、とてもユニークな取り組みを始め、他校でも月 1 回、残菜ゼロの日を設けたり、校内放送で献立のねらい等の呼びかけをしたり、給食委員が毎日の食べ残しの量を計測したり、食べ残しが少ないクラスの表彰をしたり等、色々工夫してやっていただいてお

ります。

こうした皆さんの高い意識と努力で食品ロスを削減したいところですが、残念ながら昨年度は、56万6114キログラムの生ごみが出てしまいました。これは中学校25メートルプールだと約6個分の量に当たります。経費も処理経費も約3760万円かかっています。

日本では、今お話したような食品ロスが大きな問題となっているわけですが、世界に目を向けますと、2018年のデータですけれども、世界で9人に1人。約8億の人が飢餓に苦しんでいる状況、特にアジアでは5億、アフリカでは2億5000万人の方が飢餓で毎日苦しんでいるという現実があることも、私達はしっかり認識すべきではないかなと思っています。

さて、本区では、やむを得ず廃棄せざるを得ない生ごみについては、平成14年度よりリサイクルに取り組み、現在は飼料化しています。

給食は皆さんの体位向上と健康づくりのために作られていますので、今後も食べ残しを減らす取り組みを進めながら、廃棄せざるを得ない生ごみについては、しっかりリサイクルしていきたいと考えています。

また、燃料化については、静岡県の例も出していただきましたが、山形県天童市で本年度より始めた「学校給食の食べ残しを家畜の糞等と混ぜて発酵させる手法により、バイオガスを発生させ、発電の燃料に活用する」との事例等も含め、他の自治体の先進的な取り組み等も参考にしていきたいと考えています。

今後も皆さんからの色々なアイデアを区にお寄せいただくことを楽しみにしております。よろしくお願いします。